シネマズライフ

2016年5月13日発行 第103号 http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

貴樹 諒音（たかぎ りおん）

【最近のこれはお見事！】『野生のなまはげ』

【なまはげ】が野生動物として生息していて、人間と暮らす事になってしまった騒動を描くそう。発想は普通だが【なまはげ】とは妙案笑。拝見したい映画でもある。子供を脅かす習性があったり面白い。

【最近のこれはまずいぞ！】『帰ってきたヒトラー』

世界的にネタ不足の映画界がついにここまでって感じ。しかも、蘇らせるならもっといい人がいただろうに。

映画の風景 日本の風景

※ 東京 両国国技館 ※

『禁断の惑星』という映画があった。こんな映画だ。

今よりはるか未来の22世紀。人類は宇宙にまで移住するまでになっていた。

宇宙船C-57-Dは、20年前に移住したはずだがそれ以来消息を絶ったベララホン号の消息を確認する為《惑星第4アルテア》に向かっていた。長い旅の後、ようやくたどり着くと星から無線が入り、「救助は不要。地球に帰れ。着陸すると安全は保障できない。」と言う。声の主はベララホン号の乗組員のモービアス博士で、アダムス船長は任務を盾に着陸する。

そこは、閑散とした砂漠。ほどなく車が到着し、ロボットが、博士の所へ案内するという。案内された場所はまるで別世界。豪奢な家に森のような庭までであった。住民はベララホン号の生き残り乗組員のモービアス博士、そして星で生まれた美しい一人娘・アルティラだけだ。博士の説明によると、星に到着してほどなく、何者かが博士夫婦以外のメンバーを殺してしまい、星を去ろうとしたメンバーも宇宙船ごと消えたという。

「悲劇を起こしたくない、帰りたまえ」と忠告するが、事の次第を地球に連絡しなければならず、アダムス船長は帰る訳にはいかない。そしてしばらくして悲劇が起こる…。

【アイデア対決・ロボットコンテスト】の全国大会は《両国国技館》で行われる。思えば、この大会が始まった頃から【ロボット】を日常にも使える道具として扱うようになったのではなかろうか。

この映画で登場する【オールマイティロボット】ロビーのようになるのはいつになるのだろうか？楽しみな気もするが、その時は人類の終わりの日のような気もする。人間もそうだが【完璧なもの】は【完璧でないもの】を《不要なもの》と認識する。

それは【完璧なもの】になれない人間にとって恐ろしい事である。

『禁断の惑星』1956年 アメリカ 監督：フレッド・M・ウィルコックス 原作：アーヴィング・ブロック アレン・アドラー 音楽：バロン夫妻
出演：ウォルター・ピジョン アン・フランシス レスリー・ニールセン ロビー・ザ・ロボット

この時代のSF映画は単純な特撮と優れた特撮とに分かれておりこちらは優れた方。地下に作られた人工知能の世界は底なしの暗さは人類の将来を見るようで怖い。

コラム

【サザエさん】という よき時代

後編

私が若い頃《っていつ頃やねん！》は、病院・美容院にいったら、【姉妹社】版の『サザエさん』が置いてあった。

昔の病院は予約制などなく、すぐ呼ばれるか待たされるのかわからない、その待ち時間が四コママンガの漫画は、実に便利。四コマ完結なら漫画を途中まで読みきれないという事もない。実に便利だった。

『サザエさん』が初めて描かれたのは昭和21年4月22日から、福岡の地方紙【夕刊フクニチ】に連載。その後、東京に引っ越し、昭和24年12月1日に『夕刊朝日新聞』に連載開始、昭和49年2月21日まで、何回かの休載を経て連載された。

戦後すぐから、昭和の時代を色濃く反映しており、人々の生活の変化・心情などがよくわかり非常に面白い。

特に言葉遣いなどは、橋田寿賀子もびっくりの言い回しが登場する。

「わたし」を「わたくし」。

人から何かをもらった時は「くださった」

人の家を訪ねた時に「ごめんください」と声をかける。

昔は、敬語と普段使いの言葉はきっちりわかれていたが、今では曖昧になって逆になんでも「お」を付ければいいみたいな風潮があり、《慇懃無礼》という言葉を教えたいぐらいだ。

『サザエさん』では、子供のカツオでさえ言葉の使い方を知っていて、これも、道徳を軽んじ学力重視の結果なのだろうと思う。

以下次号。

☆【最近のこれはお見事！】は見事な映画の題名の紹介、反して【最近のこれはまずいぞ！】は「これは、まずいぞ！」と思う題名を紹介しています。

on air !

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します！

CS・BSのオンエア時間は変更になる場合もあります。m(_ _)m

『十二人の怒れる男』

スターチャンネル

1957年　アメリカ

監督：シドニー・ルメット　原作 脚本：レジナルド・ローズ
出演：ヘンリー・フォンダ　リー・J・コッブ　エド・ベグリー
マーティン・バルサム　E・G・マーシャル　ジャック・クラグマン
ジョン・フィードラー　ジョージ・ヴォスコヴェック　ロバート・ウェバー
エドワード・ビンズ　ジョセフ・スウィーニー　ジャック・ウォーデン

5月23日（月）15:00　【チャンネル1】
5月26日（木）6:45　【チャンネル1】
5月29日（日）25:50 ⇒5月30日（日）1:50　【チャンネル1】

夏のうだるような暑い日。ようやく法廷での審理が終わり、１２人の陪審員の評決が始まった。陪審員は様々。早く評決を終わらせたい人、どっちでもいい人、真剣に考える人…。全員が同じ評決でないと判決は言い渡せない。

審理されたのは少年が父親をナイフで刺殺した事件だ。日頃少年と父親はケンカばかりして、その夜も少年は「殺してやる！」と叫んでいたという。その上、少年は殺害された頃映画を見ていたが、題名は覚えていないという。

一回目の評決は１１対１で、圧倒的に有罪が多い。無罪に評決したのは８番、確かに怪しいが決定的な証拠がないという。陪審員メンバーは、納得いかないが理論的に説明する８番の考えに同調していく…。

《議論》とはこういうもの！と言える丁々発止のやり取りは見ている方も熱くなる。

『逆噴射家族』

日本映画専門チャンネル

1984年　日本

製作：長谷川和彦　山根豊次　佐々木史朗
監督 脚本：石井聰亙　脚本：神波史男
脚本 原案：小林よしのり
出演：小林克也　倍賞美津子　植木等　工藤夕貴　有薗芳記

5月25日（水）　24:45 ⇒ 5月26日（木）00:45

小林勝国はしがないサラリーマン。しかし、ようやく２０年ローンを組み新居を手に入れた。彼の家族は、大喜びの妻・冴子、女子プロレスラーか歌手になるのが夢のエリカ、東大目指して浪人中の息子・正樹だ。そこへ、兄夫婦と同居していたが折り合いが悪くなった勝国の祖父・寿国がやってきて家に居座ってしまう。

家族水入らずで暮らせると思った４人。仲が良いようで実は微妙な関係だった家族はそれぞれが勝国に不満をぶつける。悩む勝国だったが、ある日、妙案を思いつく…。

公開当時、その破壊的な内容で注目を浴びた。小さな事がきっかけで、大きな物が崩壊していくという話は多いが、家族が崩壊していく話は身につまされる人が多かったはず。

勝国役の小林克也始め、倍賞美津子・植木等・工藤夕貴・有薗芳記の熱演も見どころです。

さて、家族はどうなるのか？ラストの寓話的発想にご注目。

『地球の静止する日』

1951年　アメリカ
監督：エドマンド・H・ノース
原作：ハリー・ベイツ

：マイケル・レニー　パトリシア・ニール
ニコー・マーロウ　サム・ジャッフェ
ヒリー・グレイ

アメリカ・ワシントン。突如、空にUFOが現れ、地上に着陸。奇妙な服を着た一人の男が現れ、人々に語りかけた。

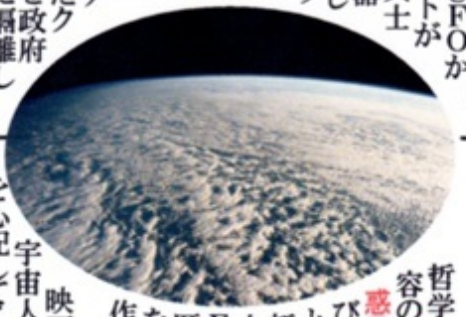
「私はクラトゥ。宇宙人である。地球人に危害を加えるつもりはない。」

ところが、それに驚いた兵士が発砲。するとUFOからロボットが現れ、兵士達の武器を破壊し始めパニックに。しかし、クラトゥが制止する。

兵士の発砲でケガをしたクラトゥを政府は病院に隔離しようとする。世界の指導者達と会う事を望むクラトゥだったが、それは実現できそうにない。

そこで、クラトゥは姿を消し、人間達に紛れ込み下宿屋に住み、同じ住民の未亡人・ヘレンと息子のボビーと仲よくなる。

そんな中、著名な科学者・バーンハート教授と出会い自分の使命を説明する。地球人達の起こす【戦争】を止めない地球人に警告しにきたというのだ。バーンハート教授は各国首脳を集め説得する事を勧めるが、それは無理なようだ。そこでクラトゥは一計を案じる…。



哲学的な内容の『禁断の惑星』と並び、当時としては斬新な内容でSF映画の歴史に名を残す傑作。

宇宙人は地球を心配してくれるが、はたして地球を大事にしない地球人を心配してくれるだろうか。それはあまり期待できないだろう。

映画では、不気味なロボットは、『禁断の惑星』のロビーと同じで動きが鈍い。それもまた味のある映像である。

Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie

☆読んで頂いてありがとうございました。よろしかったらコメントでご感想・お叱りお聞かせください。よろしくお願いします！m(_ _)m　貴樹諒音

☆次回発行は6月3日。発行予定第一・三金曜日です。m(_ _)m

シネマズライフ103号
発行人：貴樹諒音
発行日：2016年5月13日
cinemaz-life@movie.nifty.jp
告知ブログ
http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/

朝にならない夜はありません。
お体大切に！
かしこ。m(_ _)m

【編集後記】☆熊本の地震も落ち着いたようで、まだ揺れはなくならないようです。

§当世ラブキャラ列伝§『猫侍』　班目久太郎（演じる人は北村一輝）　呉服問屋の主人、与左衛門が夢中になった雌（メス）猫・玉之丞を殺す事を頼まれ、玉之丞に斬りつけるがなぜか失敗。玉之丞を死んだ事にして自分の家で飼うハメになる。与左衛門を夢中しただけあってどこか魅力的で、玉之丞とは切っても切れない関係になってしまう。強面（こわもて）の侍でありながら、猫に四苦八苦する久太郎がかわいい！

シネマズライフーcinemaz-lifeー １０３号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi
著者：貴樹 諒音
メールアドレス **cinemaz-life@movie.nifty.jp**
著者紹介ブログ 『明後日の憂鬱』
http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/2012/01/post-bcc7.html

《スターチャンネル》
『十二人の怒れる男』
《日本映画専門チャンネル》
『逆噴射家族』

映画の感想は現在・下記のサイトにアップしています。
ぜひ、ご覧くださいませ。

Yahoo!映画
rion_takagiのMyムービー
http://my.movies.yahoo.co.jp/profile-g.uFIUaEfCFw6D1cq3gb5A--

※＆ 他にもいろいろやってます。**(^^;)** ※＆
お世話になっているインターネットＴＶ
netchannel KYO

『オススメ犬映画』
http://www.pet-c.net/column/movie/index.php
犬の映画を紹介してます。

§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※

感想はこちらのコメント欄かメールを頂けたら幸です。
cinemaz-life@movie.nifty.jp

§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.